

筑波学院大学生 町活性化策探る

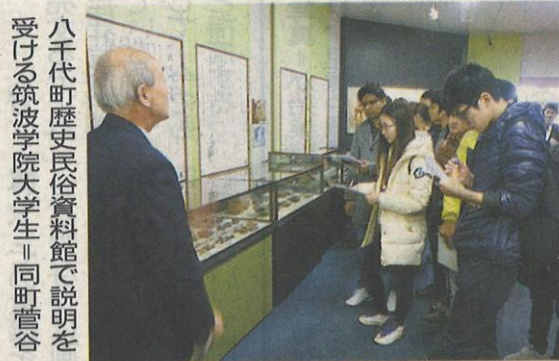
八千代で視察研修

地域活性化の方策を考えようと、八千代町商工会（秋葉一会長）は、筑波学院大学（つくば市、大島慎子学長）の学生20人を町内に招き、視察研修を行った。

同大学と同商工会は、町の資源の有効活用と教育研究などを推進し、産業振興や人材育成、環境保全などの分野で連携・協力するための協定を今年9月に締結している。

学生たちは、町役場で概要説明を受けた後、ハクサイ農家の作業現場や歴史民俗資料館、八千代グリーンビレッジなどの施設を見学した。2004年に開設した市民農園の稼働率が100%と聞いて驚いていた。

同商工会地域活性化推進委員会の高塚幹夫委員長は「まずは町の現況を知ってもらおうと企画した。次は大学で、町の資源をどう地域づくりに生かせるか意見交換したい」と話した。



八千代町歴史民俗資料館で説明を受ける筑波学院大学生。同町菅谷